

「自然環境科学研究」投稿の手引き

昭和 61 年 12 月実施
平成 14 年 11 月改訂
平成 20 年 1 月改訂
平成 29 年 1 月改訂
令和 5 年 5 月改訂

1 はじめに

この投稿の手引きは投稿規定 5 によるもので、論文（資料を含む、以下同じ）投稿に当たり原稿執筆の指針として設けられている。よく読んで諸注意を守り、体裁の整った、読みやすく、理解しやすい論文を作成すること。

2 投稿論文

2・1 投稿論文の形式

2・1・1 投稿論文の提出 投稿論文はデジタル・ファイル 1 部を提出すること。ただし、必要に応じてプリントした原稿の送付を依頼する場合がある。著者は投稿原稿（審査などで変更が加えられた場合は、その変更部分も含む）の完全な控えを手元に保存すること。

2・1・2 投稿論文の構成 投稿論文は次のものから成る。

①投稿カードファイル

②本文ファイル

表紙（題、著者名および連絡先の和文と英文）

論文の要約

Keywords

本文（図の説明を含む）

③図と表のファイル

2・1・3 原稿の書式

①文書ファイルはすべて A 4 版で横書きとし、和文の場合は明朝系のフォントを用い 24 字×23 行、英文の場合はなるべく Century を用い、12 ポイント文字で 25 行の設定とする。

②図と表の書式は定めないが、見やすさを考慮して作成すること。

2・1・4 投稿カード 投稿カードには当編集委員会が定める所定の事項を記入する。

2・1・5 題名 題名は論文の内容を的確に示したものでなければならない。一連の研究である場合は、その大題名および前報の著者名、所載文献を脚注に書く。大題名を途中で変更することはできない。

2・1・6 要約 報文には、本文の始めに 150 語以内の英文の要約をつける。また、本文が英文の場合には、英文要約の他に 1,000 字程度の和文要約もつけることとする。

2・1・7 Keywords Keywords は 6 語以内とし、英文と和文で記載する。Keywords には論文の内容が明確に分かるような語を本文から選び出すこと。

2・1・8 本文 報文の本文は、2・1・3に定める書式で、なるべく 30 枚以内（図と表を含む）にまとめること。

2・1・9 その他 学会、講演会などで発表した論文は、本文の末尾にその年月日、会名を記載する。

2・2 投稿論文原稿の書き方

2・2・1 文章 和文は平仮名書き、文章口語体（「である」式）とし、常用漢字と現代仮名づかいとを用い、簡潔に書くこと。

2・2・2 ローマ字およびアラビア数字 本文中（見出しを除く）のローマ字綴りとアラビア数字は活字体（半角）ではっきり書くこと。

2・2・3 句読点 句読点、括弧は 1 字に数え、原稿の書き始めおよび行を改めたときの書き始めは 1 字あける。なお、句点、読点はそれぞれ、（．）および（，）とする。

2・2・4 専門用語 専門用語は特別な理由がない限り、文部省の学術用語集に従うこと。

2・2・5 略語 略語は慣用に従う。略語を用いるときは、論文の要約および本文の最初に出てくる箇所で、正式の名称に略語を括弧内に付記する。

2・2・6 外国の人名、会社名 外国の人名、会社名などはローマ字綴りで書くことを原則とする。ただし、周知の術語となっている人名は片仮名書きとする。

例：〔ピタゴラスの定理、ニュートン力学、メンデルの法則など〕

2・2・7 見出し 本文中の大見出し、中見出し、小見出しは Point system とし、1 文字あけて、1, 2, 3, ……、1・1, 1・2, ……、1・1・1, 1・1・2, ……とする。大見出しの前後、中見出しの前は 1 行あける。また、大見出しおよび中見出しの後の本文の始めは改行して 1 文字あけて、小見出しの後の本文の始めは改行せず 2 文字あけて書き始める。

2・2・8 図と表 図と表は、「4 図と表」を参照して作成すること。

2・2・9 生物名・学名 生物名は、和文の場合基本的に和名（カタカナ）を用い、本文の初出で学名と命名者名を記す。その時併記する学名は、カッコには入れない。なお、命名者名は、動物の学名の場合と多数の学名を列挙する場合は省略することができる。本文中の学名は、イタリック体で記載する。

2・2・10 物理量 物理量の記号およびその使用上の規約は、なるべく「学術

用語集」に従うこと。

2・2・1 1 単位 単位は、なるべく SI 単位を用いる。

2・2・1 2 脚注 原則として本文中では脚注を用いず括弧を使って書く。やむを得ない場合は、本文中のその項目の右肩に*¹*²のように付け、その行の終わったところで、次の行に線を引き、その次の行から脚注を書く。脚注を書き終ったならば、再び次の行から本文を続ける。

2・2・1 3 謝辞 謝辞が必要であれば、引用文献の後に 1 行あけて記載する。

3 引用文献

3・1 引用

3・1・1 本文中での引用の仕方 引用は半角括弧で閉じる。著者が 3 名以上の場合は、第二著者以降について、和文では「ほか」、英文では「et al.」とする。まとめて引用する文献は、セミコロンで区切り、出版年の古い順とする。著者と出版年が同じ文献は、出版年の後にアルファベットを付して区別する。著者が 3 名以上で第一著者と出版年が同じ文献についても同様に区別する。

3・1・2 ウェブサイト ウェブサイトは、引用に適した文献がない場合に引用できる。発行者と発行年が判明しており、PDF ファイルのように原則として逐次更新されていないウェブサイトは、文献の引用と同様に引用する。発行年が不明の場合や逐次更新されている場合は、本文中に URL と最終確認年月日を記述する。なお、発行者が不明の場合は、原則として引用を避ける。

3・1・3 新聞記事等 新聞記事などを引用する場合、引用文献に含めず、本文中に確認した記事の記者名または匿名、新聞社名および支社名、記事名、日付について記す（例：匿名、朝日新聞横浜・朝刊「絶滅危惧植物、引き抜かれる」2023 年 4 月 13 日）。議事録などを引用する場合は、引用文献に含めず、本文中に発言者、会議名と開催年月日、必要ならば議事案件について記す（例：古田議員、衆議院環境委員会 2020 年 3 月 10 日、環境の基本施策に関する件）。

3・2 引用の例

3・2・1 文献の例

- 關・竹内(2015)はハクビシンが……
- ……多く植栽されていることが記録されており(樋口・小野寺 1992；Matsuura 1999；布川 2002, 2005a,b；海老根ほか 2004；布川・塚原 2005；長坂ほか 2006, 2020；米山ほか 2010；片井ほか 2014；川崎・八神 2017；本橋 印刷中), ……
- ……といった役割も知られている(Bilby and Likens 1980；Bilby 2003；Faustini and Jones 2003).

3・2・2 ウェブサイトの例

- ……ハクビシンおよびアメリカミンクの生息が確認されている（北海道

2010) .

- 学名は YList(米倉・梶田「BG Plants 和名－学名インデックス」
http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html 最終確認日 2014 年 12 月 24 日)
に従った。

3・3 引用文献

3・3・1 引用文献欄の書き方 本文中に引用された文献に限り，かつ引用された文献すべてを引用文献に記す．文献は，言語にかかわらずアルファベット順に配列し，同じ著者の文献が複数ある場合には出版年の古い順に配列する．出版年が同一の同じ著者の文献は，年の後にアルファベットを付して区別する．雑誌名は省略しない．

3・3・2 雑誌からの引用

<著者名 (発行年) 表題. 雑誌名, 巻:初頁-終頁>あるいは<著者名 (発行年) 表題.
雑誌名, 巻:初頁-終頁. URL 形式の DOI>

著者名は姓が先、名を後とし、間に半角スペースを入れる。著者名間は半角コンマとスペースで区切る。

例)

Adams MWD, Grant LS, Kovacs TGL, Liang SQT, Norris N, Wesley HE, Alessi MM, Banks PB (2022) Commensal black rats *Rattus rattus* select wild vegetation over urbanised habitats. *Oikos*, 2023: e09671. <https://doi.org/10.1111/oik.09671>

平岡 正三郎, 山本 大二郎 (1983) トリチオ炭酸カリウムの発色反応に及ぼす促進作用を利用した超微量銅(II)の吸光光度定量法. *分析化学*, 32: 435-441

野々村 邦夫 (1991) VLBI による海面変動の監視—地球環境保と科学技術について. *環境情報科学*, 20: 7-10

Thompson MSA, Brooks SJ, Sayer CD, Woodward G, Axmacher JC, Perkins DM, Gray C (2018) Large woody debris “rewilding” rapidly restores biodiversity in riverine food webs. *Journal of Applied Ecology*, 55: 895-904. <https://doi.org/10.1111/1365-2664.13013>

Watanabe R (1990) Notes on the Thuidiaceae in Asia. *Journal of the Hattori Botanical Laboratory*, 69: 37-52

Yamazaki T (1990) A new species of *Epilobium* in Japan. *Journal of Japanese Botany*, 65: 141-144, pl. IV

3・3・3 単行本・報告書の引用 (本全体を引用する場合)

<著者名 (発行年) 表題. 出版社, 出版社所在地>

例)

ダニレフスキー AS (1966) 昆虫の光周性 (日高 敏高, 正木 進三他訳). 東京大学出版会, 東京

日本化学会 (編) (1977) 新実験化学講座 13, 有機構造(II). 丸善, 東京

大井 次三郎 (1975) 日本植物誌 改訂増補版. 至文堂, 東京

Oostendorp C (1987) *The Bryophytes of the Palaeozoic and the Mesozoic*. J.Cramer, Berlin

坂田 康一 (編) (1990) 北海道の湖沼. 北海道公害防止研究所, 札幌

3・3・4 単行本から一部を引用する場合

<著者名 (発行年) 表題. (編者名) 書籍表題, 初頁-終頁. 出版社, 出版社所在地>
<Author (year) Title. In: Editor of book (ed), Book title, first page-end page. Publisher, City>
例)

Arikawa T, Tsubota H, Deguchi H, Nishimura N, Higuchi M (2008) Phylogenetic analysis of the family Hypnaceae based on rbcL gene sequences. In: Mohamed H, Baki BB, Nasrulhaq-Boyce A, Lee PKY (eds), Bryology in the New Millenium, 215-225. University of Malaya, Kuala Lumpur

ゲーツ D (1971) 人為的天候改変-是か非か. (ヘルフリック HW Jr. 編, 川口 正吉訳) 環境の危機, 59-78. 産業能率短期大学出版部, 東京

宝月欣二 (1986) 藻類群集の構造と多様性. (秋山 優, 有賀 祐勝, 坂本 充, 横浜 康 継 編) 藻類の生態, 593-622. 内田老鶴圃, 東京

3・3・5 ウェブサイトの引用

<作成者 (発行年) ウェブサイトの名称. URL, 確認日>
ウェブサイトの名称や発行年が不明な場合は省略してもよい. データベース等の場合, そのトップページの引用でもよい.

例)

国立環境研究所. 侵入生物データベース アメリカミンク.

<http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10190.html>, 2016年7月18日確認
気象庁. 各種データ資料. <http://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>, 2014年10月10日確認

環境庁 (2013) 汽水・淡水魚類のレッドリストの見直しについて.

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=818>, 2014年6月5日確認

いわき市, 国土交通省 (2014) 東日本大震災による津波被災現況調査結果.

http://www.city.iwaki.fukushima.jp/dbps_data/_material_/localhost/hisaijyoukyou2.pdf, 2015年7月7日確認

The Plant Names Project. International Plant Names Index. <http://www.ipni.org/>, 2004年10月24日確認

Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council (2011) Press Release on September 14, 2011. <http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/110914.htm>, accessed on 27 October 2016. (In Japanese) (英文中で日本語サイトを引用する場合の例)

3・3・6 印刷中について

「印刷中」(in press) という用語は, その論文が受理されている場合にのみ使用し, 未受理の場合には, 本文中で「未発表」と記し, 引用文献リストには含めない. 印刷中の文献は, 刊行年が確定か未定かによって, それぞれ以下のように示す.

例)

本橋 篤 (2021) 武蔵野市街に植栽されたブナ科5種の堅果形態について. 自然環境科学研究 (印刷中)

本橋 篤 (印刷中) 武蔵野市街に植栽されたブナ科5種の堅果形態について. 自然環境科学研究

4 図と表

4・1 図と表の使用

図と表は最小限にとどめる. 同じ内容のものを図と表の両方で表わすことはやめ, いずれか一方にする.

4・2 図と表の表記

図の題, 説明および表は, 本文が和文の場合は和文または英文で統一する. なお, 本文が英文の場合は, すべて英文とする.

4・3 図と表の番号

図および表の番号は1, 2, ……とし数字の後にピリオドはつけない. また, 1図の中に複数の図が含まれる場合の記号は1図ごとにA, B, ……とし, さらに細部に記号を付す必要があれば, a, b, ……, (1), (2), ……, (i), (ii), ……の順に用いる. 本文中で引用する場合は, 図1 A, 図1 A a, ……のように継ぎ符を用いずに表記する. 表の場合は表1, 表2, ……と書き, 図と同様に数字にピリオドはつけない. 図および表を英文にした場合は, Fig.1, Fig.2, ……, Table 1, Table 2, ……とする.

4・4 図

4・4・1 図の原稿 図の原稿は本文ファイルとは別に1図1ファイルで作成する.

4・4・2 図の作成 図は, 著者の原稿を適切なサイズにして使用するのので, 明快な画像を作成すること.

4・4・3 図の題と説明 図の題と説明は, 図の原稿には記入しないで, 別に説明原稿を作成する.

4・4・4 写真 写真は図として扱うので, 図の作成の指示に従って番号, 題などを付ける.

4・5 表の原稿

表の原稿は本文ファイルとは別に1表1ファイルで作成する.

5 その他

5・1 原稿の返却

投稿原稿はデジタル・データ、印刷原稿ともに返却しない。ただし、特別な理由で返却を希望する場合は、投稿カードにその旨を記入すること。

5・2 原稿の送付先および連絡先

原稿の送付、その他「自然環境科学研究」誌に関する問い合わせは、
〒252-0102 神奈川県相模原市緑区原宿5丁目15番6号
公益財団法人平岡環境科学研究所 編集委員会」
<http://hiraokaken.or.jp/>宛に行うこと。